

# たつおか

1950. 12

No. 20号

発行人 北沢小太郎  
 編集人 龍共印部  
 印刷所 株式会社印刷  
 発行所 竜丘村公民館

## 竜丘村区會議員

12月23日改選された  
 次の通り決定各區共定員以外の候補者なく全員そのまゝ当選した。  
 新人に依る今後の区政運営が注目されて居る。

- 〔駄科〕  
 林正司 下平爲一 下平清 中平良生 下平勳 吉川亘 久保山 賀下平喜三 木下盛 牧島與一
- 〔長野原〕  
 鹽沢吉郎 下井田幸一 鹽沢盛太郎 小林俊一 今村龍郎 小林玄吾 小林計美 今村中子郎
- 〔時文〕  
 河井善一 今村賢 伊藤龜
- 〔上川路〕  
 原登 桐生実 原道太郎 下平祐一 林泰雄 中島好男 中島忠男 鹽沢佐富
- 〔田中〕  
 田中喜十 小室重雄 牧内貞吉 塚平清 木下美治 窪田幾男 井口團造 木下利男

## 100%投票を表彰 教育委員選挙の結果

十一月十日執行の長野原教育委員選挙は全国的に關心が低調であつたが、本村有権者數二七六名中、棄権者四四九名、投票率は八四・三%これを各區別に集計すると、

區別別有権者 棄権者 投票率  
 駄科九三三 一七八 八〇九  
 長野原一九六 四二七 八三五  
 時文七二四 一八九 八三三  
 桐林七〇六 七八八 八八九  
 上川路三二七 三二九 〇二  
 別では上川路區が一番良い投票率であつた。自治組合單位では一〇%が

時文七番組 學校 瑞穂の三組合  
 九七・四%が  
 桐林十三番組  
 第三位の九六・八%が  
 桐林二番組と十四番組  
 九六・三%が  
 駄科六番組と桐林四番組  
 上川路五番組  
 第五位の時文八番組 桐林八番組 以上入賞組合は月末に組長会を開き選挙管理委員会より表彰する。

## 竜丘村税務関係委員

竜丘村税務審議会委員 村

本村に於ける一々水路事業は組合員の間若干の意見の対立があり、數回に亘り各區

## 縣下拾六ヶ村選ばれた台所改善指定

飯田保健所では所員松下正一氏が十二月十三日來村本村が下伊那郡下一ヶ村の台所改善指定村として指定せられたから、村で積極的に改善を推進してむらび度いと村当局、公民館長、婦人会長等に傳へた。縣下の指定村は次の通り

〔縣下〕  
 北佐久那(三都和村) 下高井那(往郷村) 諏訪那(海南村) 植村那(東條村) 東筑摩那(山形村) 北安曇那(松川村) 上水内郡津和野那(下内郡) 常盤那(南佐久那) 南牧村(平良村) 西筑摩那(神坂村) 上高井那(高井村) 南安曇那(北穂高村) 更紗那(更紗村) 下伊那那(竜丘村)

尚本村のうち一戸を選定改善の見取圖並に経費精算書を至急提出との話があつたので敢て北沢館長宅の台所改善を書類に作成報告した。

## 村政は合理的に行われているか

十二月二十日役場では農協村會議長、農民組合長、農地委員会、カルニユー、天龍社、銀行、公民館長、他各團體長の參集を求め、新地方自治確立運動行事として左項の様な主題で懇談会を開き、本年度村政の反省の材料とした。尚村民の意見として本年開催の三回開催し、廣く村民の聲を聞く事が必要だと言ふ事や、一般告の文章を出来る限りわかり易く表現する事や本村の重要な課題として開拓計画推進の必要をいふ意見が出された。

一、村の機関(役場、議會、委員会等)が出す意思(連絡通知等)が村一般によく

二、村の機関(役場、議會、委員会等)が出す意思(連絡通知等)が村一般によく

三、村政は合理的に行われているか(速かに且つ徹底して)傳わる(届き且つ理解される)かどうか

四、方法が適當であるか

五、村民の意思が村機關を通じていかにかかっているか

六、どんな隘路があるか

七、村政は合理的に行われているか(議會主)民主的であるか(議會主義を尊重しているか。獨断強硬過度はないか)

八、合理的であるか(明瞭か)能率的か(経済的か)

九、村の予算がどのように使われるかを一般がよく理解できるようにするにはどうしたらよいか

## 村内豆ニユース

十二月七日農協にて開催 講師は鈴木新聞社の盛力に依り中部日本新聞社論説委員掛川喜遊氏

十二月七日伊賀良村役場に於て地方事務所林務課係員臨席し開催 結局今委員會議の分割問題取扱方針協議。來春雪解を持つて山巡視を兩村委員立合で行つて、研究する事にして、第一回は内容的に余り進行せず散會した。

公民館映画十一日、十二日開催。特に婦人會共催の親爺教育映画「破れた太鼓」はもつとラジヤンに観てむらいたかつたとの聲が多かつた。

公民館圖書部長決る かねて兼任の下半主事、圖書部長を兼任二十六年度は村連青の推薦に依る久保田昭三氏を圖書部長に決定

六拾余万円で稚蚕 農協では十二月十二日理事會、引き實行組合長會。廿五日専門委員會を開催。いよ狭くなつた稚蚕共同飼育場増築案を可決。糸價好調養蚕復興の波にのつて收購増收の對策の第一歩を進める。

公民館(圖書部)へ鏡を寄贈 村連青代表議員會決議十二月十三日記念館に催した本村連青はバサリ利益金と學校の用材切り代金に依つて、三尺四方の大鏡を寄附

## 成人講座「國際狀勢」

十二月七日農協にて開催 講師は鈴木新聞社の盛力に依り中部日本新聞社論説委員掛川喜遊氏

## 共有山分割委員會

十二月七日伊賀良村役場に於て地方事務所林務課係員臨席し開催 結局今委員會議の分割問題取扱方針協議。來春雪解を持つて山巡視を兩村委員立合で行つて、研究する事にして、第一回は内容的に余り進行せず散會した。

## 破れた太鼓好評

公民館映画十一日、十二日開催。特に婦人會共催の親爺教育映画「破れた太鼓」はもつとラジヤンに観てむらいたかつたとの聲が多かつた。

## 公民館圖書部長決る

かねて兼任の下半主事、圖書部長を兼任二十六年度は村連青の推薦に依る久保田昭三氏を圖書部長に決定

## 六拾余万円で稚蚕

農協では十二月十二日理事會、引き實行組合長會。廿五日専門委員會を開催。いよ狭くなつた稚蚕共同飼育場増築案を可決。糸價好調養蚕復興の波にのつて收購増收の對策の第一歩を進める。

## 公民館(圖書部)へ鏡を寄贈

村連青代表議員會決議十二月十三日記念館に催した本村連青はバサリ利益金と學校の用材切り代金に依つて、三尺四方の大鏡を寄附

## 定例村會開催

十二月二十二日役場に開催 村稅減免の件、大分縣開拓地調査報告その他協議。

## 小作料受領は農協で

二十五年度小作料は十二月二十七日農協に於て貸借借双方出席の上支拂を完了する様農地委員會、農民組合名で通知、標準は三石二斗反收の土地で反当六百元。二四年地租増加に依る小作料追加分は賃賃價格に四、八八倍と決定。

## 公民館出張

十一月二十八、九両日下條村へ下伊那公民館主事會議開催、下半主事出席

## 硫酸を追放せよ

化学肥料と云えば先づ硫酸に浮ぶのは硫酸だと思つて居る。硫酸時代になつて居る。肥料桶を提げて遠くから見ても硫酸だとなつて居る位白く撒いて居る。そう云う所は大抵麦なら班葉病、白糠病、赤カビ病、倒伏病なら苗イモチ、穂育稲、倒伏病なら莖に白キヨイ、莖空頭莖肉高(ウミ)と云うた実情だ。一般に硫酸とはど様な物であるか知らないが、無暗矢鱈に使用して居る人が多居る。本村の硫酸の消費量は他村に比較して割合多いので、硫酸を減らすに努めたい。硫酸はアンモニアを施すと硫酸アンモニアのアンモニアだけが吸収される。そこで問題なのはアンモニアが吸収されずに残る硫酸で硫酸の中に四分の三も含有されて居る硫酸は全然肥料にならなばかりか、か

## 諸會議いろいろ

十二月十一日川路、龍江、竜丘三ヶ村立會にて、天龍川水路協定

十八日入會山巡視員打合會

二日交換分合推進委員會

二日農業調整委員會

二日役場於公民館運営審議委員會

(一)事業報告

(二)本年度事業の反省と批判の件

(三)生活合理化研究会開催の件

(四)村報編輯コンクール参加の件

(五)事業部組織の件

(六)加の件

(七)等々協議

二日婦人會役員會役場に開催 農家簿記帳につき打ち合會

## 硫酸を追放せよ

化学肥料と云えば先づ硫酸に浮ぶのは硫酸だと思つて居る。硫酸時代になつて居る。肥料桶を提げて遠くから見ても硫酸だとなつて居る位白く撒いて居る。そう云う所は大抵麦なら班葉病、白糠病、赤カビ病、倒伏病なら苗イモチ、穂育稲、倒伏病なら莖に白キヨイ、莖空頭莖肉高(ウミ)と云うた実情だ。一般に硫酸とはど様な物であるか知らないが、無暗矢鱈に使用して居る人が多居る。本村の硫酸の消費量は他村に比較して割合多いので、硫酸を減らすに努めたい。硫酸はアンモニアを施すと硫酸アンモニアのアンモニアだけが吸収される。そこで問題なのはアンモニアが吸収されずに残る硫酸で硫酸の中に四分の三も含有されて居る硫酸は全然肥料にならなばかりか、か

## 硫酸を追放せよ

へつて害になるのだ。此の残る硫酸を二つに分けて見ると一つには酸の害、二つには硫酸の害となり、硫酸は硫酸の事で酸は葉が酸に腐つて倒伏や病虫害に犯される。近頃盛んに酸性土壌酸性土壌と云うのも原因はこゝにある。大麦等は生育しない、酸土検査等をしては石灰使用の奨励をされてもこゝに憂う可き事がある。それは酸性土壌の中和に石灰使用が奨励され、使用すると石灰と残つた硫酸とが土中に結合し石膏となる。従つて石膏は御承知の如く固く冷たいもので、水田へ使用すると固く冷たくなるので、土はだんだん縮つて太陽熱の吸収は悪くなり、稲には尤も害をする事になる。酸の中からは出来ても硫酸の害を除く事は出来ない。固く冷へた土中にある硫酸は硫黄に水素に變化し硫化水素は大動物で居る微生物や作物に害になる事は云う迄も無い。根腐病が死んで仕舞ひで豆類には酸類を施すと減収するのの原因はこゝにあると思はれる。

稲の秋落の原因も一つは硫酸使用に依つて起るのであり、硫化水素に根を次第に痛められ栄養分を吸収する事が出来ず、栄養不良となつて秋落の原因とならませう。

以上述べた事が硫酸の害であり、充分御判りの事と思つて居る。目的は肥して小面積で増収するにあつても使用後に害を残す様なものはそれ自体が非科学的とも云はざるを得ない。故に私は硫酸追放せよと申したいのだ。増産の秘訣は先づ土を作るに在り、土を作るには硫酸では出来ぬ。土と土壌改良の一石二鳥を兼ねるのであり、増産を企てる硫酸こそ恐る可き肥料だと思つて居る。本年の減収の減収の振返つて見ると硫酸の祟りで無いたらうか。來年こそ本年の様な失敗の無き様今から堆肥の増産に心掛けたいものだ。

## 公民館出張

十一月二十八、九両日下條村へ下伊那公民館主事會議開催、下半主事出席

## 破れた太鼓好評

公民館映画十一日、十二日開催。特に婦人會共催の親爺教育映画「破れた太鼓」はもつとラジヤンに観てむらいたかつたとの聲が多かつた。

## 公民館圖書部長決る

かねて兼任の下半主事、圖書部長を兼任二十六年度は村連青の推薦に依る久保田昭三氏を圖書部長に決定

## 六拾余万円で稚蚕

農協では十二月十二日理事會、引き實行組合長會。廿五日専門委員會を開催。いよ狭くなつた稚蚕共同飼育場増築案を可決。糸價好調養蚕復興の波にのつて收購増收の對策の第一歩を進める。

## 公民館(圖書部)へ鏡を寄贈

村連青代表議員會決議十二月十三日記念館に催した本村連青はバサリ利益金と學校の用材切り代金に依つて、三尺四方の大鏡を寄附



國會を

傍聴して

(岡村賢作)

郡町村議長会では第九臨時議會を傍聴すべく、一行三十名去る十一月二十一日夜行で上京した。新宿驛に出迎の本郡出身今村代議士の秘書に伴われて早速今日の開院式場である参議院に行く。一行が大部隊なので代議士招待の傍聴券が入手出来ないとの事で一般傍聴券をもらうべく門前に並んだ。待つ事二時間やつと傍聴券が入手出来たので一先ず付近の参議院会館に引揚げ、持参の朝食を食す。十時半入場、さすが最高の立法院だけに見事なものだ。十一時開會の振鈴と共に参院議員が次々入場、参院側にも参議院議員の姿が見える。今村代議士も吾々の傍聴席に軽く会釈を送る。中央議員席の最前列に吉川首相、池田蔵相外各大臣が並び、間もなく参議院議長長官で天皇陛下御入場、一段高い玉座に着く。警原参議院議長両院を代表して式辭朗読、続いて天皇陛下の御言葉あり、閉會此の間僅か八分あつと云う間に閉院式を終る。其れより議員食堂で夕食を食す。外に出る。此の付近は東京の中心街だけに戦前に劣らぬ大きな建物が並び、日星らしい建物は進駐軍の使用が多く、新しい一九五〇年型の自動車が見渡す限り道路の両側、空地等雲の如く並んで居るのも此処ならでは見られない風景だ。日比谷の交又点に建築中の日活国際会館の七階建が工費八億と聞いて驚く(戦前の丸ビルに比較すれば小さなものだ)延々六里の竜西一貫水路の三億三千を想い出して心細くなる。午後二時宮城拜親を許されて居たので拜親口、櫻川門に着く。宮内省案内係より一此の城は昔大田道太郎築城になり云々の一通りの説明を聞いて城内に入る。周囲二十何十と聞いて廣いに驚く。御政務室初め目星しい建物は殆ん

村會議長として氏は村の代表で國會へ行つた。そして何を感ずるのを見られたか。再の政治を論じる國會記を掲載する。

ど爆撃され、見る影もない姿だ。紅葉山の御養蚕所も見えず。拜親一時間半其れより毎日新聞社見学と出掛ける。大きな紙の袋が次々とレールに乗って輸轉機に運ばれて行く。発行部数に於いて日本は朝日、毎日続いて読賣が六百萬部で世界一と聞いて感心する。退社時刻で身動き出来な程の人数に今日の上野藤屋ホテルに向ふ。今村代議士の秘書山田氏が終始付添つて面会を見てくれる。二十三日は旗日で議會は休みなで都内見学と出掛ける。今村代議士の厚意で特に参議院議員會館バスを廻して、都内中心街各所等大体お代々の観光コースを廻る。都部キレいなアメリカ村が全部居る。吾々お上りさの觀光バスが停れば、さつと小さい子供や女の物賣りが殺到する。上野の山の浮浪者の群と思ひ合せて悲しい敗戦を感ずる。感じさせられる。盛り場映画街の人の波、豪勢な外舞球場等驚き乍ら宿舎日本赤十字社に向ふ。此の日も今村代議士の

歳末に感じた事

(竹上清人)

「アメリカ人に招かれて何時も感じるのは、彼らが時間を一寸も無駄にしない事だ。定刻には客が皆集る。初対面の形式的な挨拶などは一切ぬきにして、すぐ胸襟を開いて飲談を交える。食事の準備もちゃんと出来ている。食後の飲談をして一時になつたら、二人の合客は、これから午後仕事があるからと言つてさつさと帰つて了つた。それで自分らも五分程雑談して辞去した。これでは客を呼んでも自分の一日の仕事が少くも減る事はない。御馳走もホテルの普通の食である。特別のものと言えども初めに食べたカクテルだけだ。それで飲

急いで暮かゝる街に出る。其れから松尾村出身の木下茂氏(横濱でオリビック商会を経営し大きく財界に成功して居る)に晩餐の招待を受け居る。今村代議士の仲介で増田建設大臣も議會中で特に多忙な中を出席してくれ、羽生参

議も見えられ、今村代議士と此の招待が、非常な盛大な愉快なものになり、豪勢な料理をいただき乍ら大いに飲談大臣の発声で郷里の萬歳を三唱して散會、三日間に亘る議會傍聴の日程を終る。

古瀬組合の稲作改善と坪刈り成績について

(原 丙三)

左記の中、ヌ氏才氏等の稲は茎葉の繁茂和点に達し此れ以上の繁茂は減収となること明らかに認められた。其の他にもこれに類したものも多かつた。そこで改善の重点と考えられる点を列記すれば

- 1、茎を多くし葉を少くし、穂を多くすること
- 2、茎を太く穂を大きくする為には良苗を作る
- 3、茎を多くする為坪当り
- 4、植付茎数を多くする
- 5、葉を少くする為本用に於ける分けつを抑制する
- 6、日光及酸素の供給を良好にする為南北の並木植とし中打を行ふ

等の点が考えさせられた。今年の成績は昨年比平均一割五分の減収であつたが、遂年成績を上げ得るものと確信した。

予 告

一月二十一日(日)生活合理化研究会

講師 指導者 早稲田大學教授 今和次郎博士 來村農家生活科を巡視して實地に生活科の立場から合理的の指しを受け 夜は研究会開催の予定

先生は農業朝日、家の光等で既に御承知の生活合理化の研究者、佐御参會

主催 公民館社会部 農業改良改善委員会

氏名	品種名	一坪株數	生産重量	生 畝 重量	畝 重 量
イ	農林0号	75	2,500	837	837
ロ	北農1号	103	3,850	923	923
ハ	農林22号	60	2,000	785	785
ニ	農林32号	81	2,600	750	750
ホ	後 後 錦	83	2,900	823	823
ヘ	後 後 錦	93	2,100	743	743
ト	農林10号	86	2,700	771	771
チ	農林22号	72	2,700	804	804
リ	農林22号	55	2,500	701	701
ヌ	農林22号	63	2,700	753	753
ル	農林22号	59	1,500	740	740
ラ	農林22号	59	2,450	743	743
ワ	農林22号	68.5	1,700	648	648
カ	農林22号	75	1,700	750	750
コ	農林22号	68	1,700	780	780
ク	農林22号	89	2,050	85	85
ケ	農林22号	88	1,800	800	800
コ	農林22号	68	1,650	700	700
ク	農林22号	69	1,600	800	800
ケ	農林22号	75	1,970	100	100

繭はどれだけとれたか?

糸價二〇萬を越えていよいよ農業経営の中に占める養蚕の役割は大きく注目されて来た。且つて郡下一の養蚕村として年間七萬貫を産した本村の養蚕は戦争とそれに依る食糧自給政策の爲減産を余儀なくされて減る一方であつたが、それも昭和二十四年を境に増産の方向に変わった。甘藷畑が桑畑に変わるといふとき、本村の養蚕経営は昔の復活でなく、新しい共同飼育と云う合理的な方法に入れられ、更に一歩一歩技術の革新が進められようとして居る。前年度と比較して本年の繭はどれだけ増したか左表を見ていただき度い。

掃立量並收繭量

期別	24年度実績			25年度実績			昨年度と本年度の比較			
	掃立瓦數	供繭數	瓦 当	掃立瓦數	供繭數	瓦 当	掃立瓦數		供繭數	
	24年	25年	24年	25年	24年	25年	24年	25年	24年	25年
春	7,800	5,500	705	8,700	6,500	747	100%	112%	100%	118%
夏	2,200	1,000	482	3,000	1,800	600	100	133	100	180
秋	5,100	2,300	426	7,900	5,200	658	100	166	100	223
晩秋	400	200	500	1,700	1,200	706	100	425	100	60
合計	15,800	9,000	570	21,300	14,700	610	100	150	100	163

原稿募集

私達の言葉、ウソニエニス、生活雑記、農事研究、文藝(詩、短歌、俳句)小品、但し投稿しても次號遅し又は捨書等の場合あり

文章はむづかしい言葉を選ばず、平易に書く、用紙は隨意。希望者には原稿用紙を差上げます

一月発行予定 一月十日締切 十五日発行

特輯「結婚と恋愛問題」







### 九州を訪ねて

#### 大分縣開拓地調査の記

限りある本村の耕地に立つて、若し村の農業経営の発展を考へても、それは唯、單位面積からいかに生産力を挙げることか、と云う努力と肥料とをこらした集約農業より仕方が無い。今二男三男は都會の工場の人員整理で失業者として村に帰り、今後の方針の立て方に迷つて居る。零細農と日本農業の特質とは云々、年々本村の場合村会農地委員会、農業経営改善委員会等結局開拓を速進して、村から積極的に開拓地へ出て行く計画を立てる事が当面重要だと、五名の代表が遂に九州を訪れる爲に出発した。

#### 急行三拾時間の旅路

十二月三日七時五十分の時又發で乗車、一行は前島村長、村會代表、鹽沢喜一、北沢小太郎、農地委員長、下平貞雄、小林三郎の五名。  
「やあどちらへ、えーと九州迄行つて参りますよー、九州迄とは、御氣をつけて行つて下さいよー」  
車中の知人に勵まされ子供修學旅行の様な面持で乗る。農橋驛で晝食、十三時五分發の熊本行二三等急行乗車、勿論三等急行券六〇〇円が要る。

#### 東山香村を訪ねて

十二月五日朝別府市亀川驛を出発、中山香の驛下車、縣道を一里余徒歩、速見郡の東山香村を訪ねた。  
いかめしい村長室に招かれ語らふ。入植者大歓迎の真面目な青年を欲しです。なとつけ加える事を忘れな。

#### 開墾予定地三三三歩

この村の開墾予定地は政府買収が三三三歩、内訳は王子一〇〇町歩、民有が一一〇町歩、村有が一一〇町歩、山は赤松と黒松が、大休十五年生から二〇年位。  
この山は王子製紙との裁判中で政府買上の異議を唱へた会社との事が解決すれば、どんな入植者が入つて山を伐り開墾が出来ると云う。傾斜は場所にもよるが東北面と西北面で大休十度から二十度、畑作農業を中心にして若干、湧水に依る水田も十分作られると思へた。附近の農家は且つて七八戸あつたが段々交通の便のよい所へ出て現在は五戸との事、電氣がついて居ないから石油ランプの生活をしながら、一軒の農家へ寄れば入植者が来て呉れ、こんな嬉しい事はないと大歓迎の氣持で素直に語る。昔は栄えた土地が墓地は立派だ、遙かに山の連を眺め松林の約一里餘、三三〇町歩の開墾地が直に開墾せられたらば拾年後は一寸思いがけない村に発展するだらうと思つて、一巡りして山道を降り、村長の案内を謝して、バス乗車、中山の驛から宇佐行の汽車に乗る。



宇佐驛下車は將に冬の暮れや...

宇佐驛下車は將に冬の暮れや、日暮れ、閑散とした宇佐八幡宮を詣り、一泊。戦争中祈願で栄へた軍神も今では廣大な境内の維持にも困るので、すく親切に案内と説明を自発的にして呉れた驛員が語つた。たしかにさびれて居るし、たしかに旅客が一行を除いて一人もない事でもわかる。

西國來地方事務所を訪ねて  
十二月六日豊後高田町迄輕便鐵道、まことに玩具の様な車に乗り、驛からわがかりにくい地方事務所を訪問、生曾所長は不在だが、總務、民生課長、農地開拓課長等所長室で説明を聞き、お茶接待の好意を謝し、見聞にお茶接待の好意を謝し、短時間にかゝり、訊いて開拓資料を頂く。専任の書記は伊坂求馬氏、何はとも角本村から行つた人達に対する直接資金や資材補助の關係等全部をこまめに御覧に一生懸命開拓の問題を御覧に一生懸命農地開拓課長は天提地區へ開

#### 集 書道會員

毎週金曜日夜開催  
本村の書道會は發足以來四年目、講師は三浦村の片桐泰藏先生、雨の日も越えて來た三浦村の山道、風の来り、書道會に入る間の修養の道として教えられる氏の努力は會員の上達を高めつゝある。  
希望者は是非御申込み下さい。  
主催 公民館教養部

#### 青年學園 折金久子

さむくとしぐれ降る今朝は部屋隅隅に  
ひえくとしぐれにしと濡れて  
揺るグリの花とコスモスの花  
舞舞れて朝の陽射せば耕し、  
黒土の上に水蒸氣立つ  
青年學園 吉川 傳  
雲り日の落葉の道をベタル踏む  
夕暮れ近く身にしむる風

#### 青年學園 増田富貴子

だと言ふ。それでも活せるのだから面白い。  
役場で収入役、勸業主任、農地書記等という、懇談し当夜は附近の農商を兼ねた重光さんの宅へ泊まる。

#### 村と本村入植者の晩餐會

当夜村會係者、受持巡査、本村出身の塚平、坂井、下平、下井田、沖田君らが元氣の良し顔をそろえて座談會を開く。みんな真から嬉しそうだ。夕飯を共にし入植後の苦勞を語る。下平君が手を見せて呉れ、尊い手だ、大地を耕して拓き

#### 親切で温い村人

十二月七日元重光外相の一族と云う、この家の親爺一家に別れて開拓地へ出て来た。一行は山道を登り乍ら山々に重光家の長女が行儀正しくお給仕をして呉れた作法と態度に感心し乍ら徒歩、約四十分途は赤土粘土質ですべり易く急坂。  
このごろ部落の人達と共同で改修したと言ふが、いかにも悪い坂路。  
徒歩約一時間。開拓地委員が世話になつて居る廣岩喜吉老人の家へ到着。附近の家の人々總出で迎えて呉れて折角だから記念写真一枚撮影。廣岩家の前にある石神様が珍らしいので訊くと屋敷神様と云う直ぐ隣の土蔵の中に沖田水光君の妻子、川路二区の水光君の妻、下久堅野藤(旧姓)等が居て、こゝで記念撮影一枚撮つて来た。雑誌、米依託品等を呈上、別れを告げて現地へ向う。こゝから徒歩三十分。汗一杯になつて登る相当の山道。  
松林が相当あり十八年生位完全な密生林で雑木一つない。永年の落葉が堆つて腐植土を作つて居る。その傍に三間に八間の素建小屋が目下建築中。屋根は全部本かやぶき、五六十年の耐久性は充分ある。費用は素建で二萬五〇〇〇円位かかる。由、大工は地元の人。團員はこの建物の仕上りを一も速くなれかしと待つ事であらう。  
少し登つて前方を見ると海が見える。別府灣だ、廣漠百二十五町歩の開墾予定地が一眼で見渡せる地点に立つと、既に

#### 開拓地萬歳

いよゝ時間が来た。話はつきない。焚火をかこみつゝ、開拓の現場で語るこの山の上的言葉は嘘がない。  
最後に萬歳を際し前島村長の發聲で萬歳を三唱。  
この九州の海拔二六〇米の山上開拓地で叫んだ萬歳は実に無量の感傷がこもつて居た。山吹村出身の小平逸夫君が同行して呉れて途中迄竹村團長農地委員會書記が見送つて呉れた。左様ならと振る團員の手に帽子、山を降りて振り返ると、別れ。  
開拓の苦勞を偲ぶだけに別れは切ない。  
萬歳三唱の折出一滴の涙は頬を傳つた。同じく五年前北

- 十一月二十四日 文化祭
- 煙火奇蹟
- 四本 時又商工會
- 三本 図書部員一同
- 一本 前島村長
- 一本 北沢節長
- 一本 農地農業協同組合
- 一本 開島源六 岡島勇
- 備品寄贈
- 柱時計堂 新生堂文具店
- 龍共社印刷所 久米屋書店
- ペンボール堂
- 電圧連合青年會